

第16回

でんきの礎

—振り返れば未来が見える—



*One Step on Electro-Technology
- Look Back to the Future -*



一般社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan

でんきの礎

－振り返れば未来が見える－

電気学会では、創立120周年を迎えた平成20年に「でんきの礎」制度を創設して、社会の発展に貢献し歴史的に記念される“モノ”、“こと”、“人”、“場所”を顕彰してきました。その数は今回の第16回で、総計93件になります。

これまで顕彰された「でんきの礎」93件は、いずれも電気学術・技術の進歩を支える、まさに「礎」として、社会や産業の発展に大きく寄与し、文化的にも顕著な貢献をしてきたものばかりです。この「でんきの礎」を顕彰する意義は、過去の輝かしい歴史として、その功績を称え残すことにありますが、それだけではなく、ここから先人の着眼点、努力、苦勞、業績を学びとり、新しい将来目標に向けた次の「礎」を我々の世代さらには次の世代が築いていくことにつながれば、この顕彰はさらに大きな価値を持つことになります。

電気学術・技術は、今や非常に多岐にわたる範囲に及び、様々な分野での発展に貢献してきましたが、「持続可能な社会の実現」に向けた課題解決のために、これまで以上に大きな役割を果たして行くことが期待されます。今回、新たに顕彰された「でんきの礎」につきましても、電気学術・技術の輝かしい発展の証であると同時に、明るい未来へと導く道標としてその行程を照らしていくものと確信しております。

また、顕彰される内容も幅広くなっていますが、私たちの暮らしを支え、様々な分野で貢献している電気学術・技術の礎は数多く存在すると考えられますので、今後も積極的にスポットライトが当てられることを期待しています。

令和5年3月

第16回顕彰委員会 委員長

田中幸二

第16回 でんきの礎

令和5年3月
(顕彰名称50音順)

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
人 こと	青柳卓雄によるパルスオキシメータの発明	日本光電工業株式会社
人 モノ	椎尾詞の発明によるベルトー口整流器	株式会社中央製作所 名古屋大学 名古屋工業大学
モノ こと	連結鉄心による高密度巻線モータ ～ポキポキモータ～	三菱電機株式会社

第16回 「でんきの礎」 決定までの流れ

「でんきの礎」ホームページ等に「でんきの礎」公募案内を掲載

令和4年2月28日 公募締切

令和4年3月 顕彰委員会より顕彰選考小委員会に精査要請

令和4年3月 顕彰選考小委員会による精査（ヒアリング含む）
～令和4年11月

令和4年11月 顕彰選考小委員会より顕彰委員会へ精査結果答申
顕彰委員会にて審議・了承，理事会へ上程

令和4年12月 理事会にて顕彰対象決定
顕彰先に内定連絡

令和5年1月 顕彰先より顕彰承諾回答入手，確定

令和5年3月16日 第16回電気技術顕彰「でんきの礎」授与式にて
顕彰状および記念品授与

でんぎの礎

—振り返れば未来が見える—

あおやぎたく お
青柳卓雄による
はるすおきしめーた はつめい
パルスオキシメータの発明

人

こと

Invention of Pulse Oximeter by Takuo Aoyagi



パルスオキシメータOLV-4201とディスプレイブルフィンガープローブTL-271T（左）、
リユースブルフィンガープローブTL-201T（右）

パルスオキシメータは、動脈血の酸素飽和度（ヘモグロビンがどの程度酸素と結びついているか）を、採血なしで連続的に測定する装置です。

青柳卓雄氏は新潟大学工学部を卒業後、民間企業を経て1971年、日本光電工業株式会社に入社しました。1972年、心臓から送り出される血液の量を測定する機器の改良をする中で、心臓の拍動により生じる脈波（パルス）を利用することで動脈血の酸素飽和度を測定できることを発見しました。その後、試作機で研究を重ねこの原理を1974年に特許出願し、国内学会で発表、翌1975年に日本光電はこの原理を用いた製品「イヤオキシメータ OLV-5100」を世界で初めて発売しました。着想としてはまさに世界に誇るべき独創的なものでした。ヘモグロビンは酸素と結びつくと鮮やかな赤色、結びついていないと暗い赤色になります。色によって光の吸収しやすさが異なることを利用して、動脈血酸素飽和度を測定することができます。指にセンサ（プローブ）を装着し、波長の異なる2種類の光を当て、吸収されずに指を通り抜けた光を測定して分析します。採血による測定では、刻々と変化する患者の容態をリアルタイムに知ることはできませんが、パルスオキシメータを使えば、体に酸素がどの程度取り込めているか患者を傷つけることなくリアルタイムに把握することができます。この技術は世界中の医療・臨床現場・在宅で広く使われています。

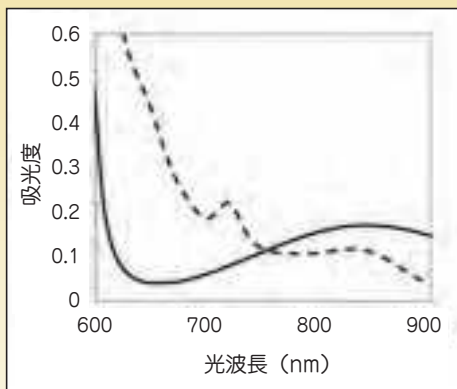
☆顕彰先 : 日本光電工業株式会社

☆所在地 : 総合技術開発センタ

〒359-0037 埼玉県所沢市くすのき台1-1-6

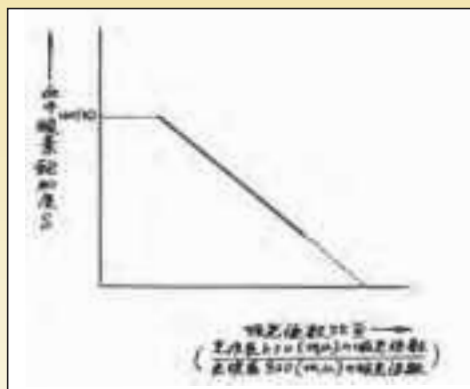
☆ホームページ : <https://www.nihonkohden.co.jp/index.html>

☆アクセス(最寄駅) : 西武新宿線/西武池袋線 所沢駅 東口徒歩1分

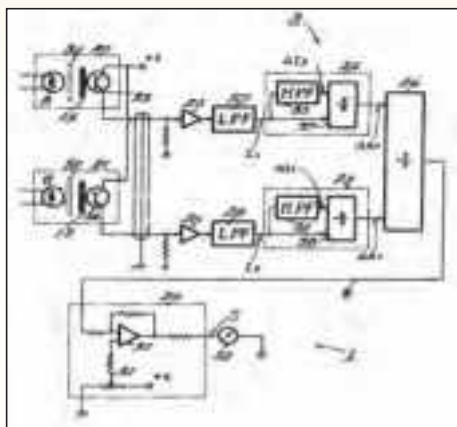


酸素と結合した酸素化ヘモグロビン（実線）と酸素と結合していない脱酸素化ヘモグロビン

①



②



③



イヤオキシメータ OLV-5100

1975年、青柳卓雄氏の原理を用いた製品「イヤオキシメータ OLV-5100」を発売

④

<写真提供：日本光電工業株式会社>

- ① ヘモグロビンの光吸収特性
- ② 酸素飽和度と吸光係数比率の関係
- ③ 測定回路ブロック図
- ④ 最初の製品イヤオキシメータ OLV-5100

VERTORO Rectifier Invented by Hitoshi Shio



①

ベルトーロ整流器は椎尾詞によって1918年（大正7年）に発明され、第八高等学校（現：名古屋大学）教授となった椎尾が名古屋高等工業学校（現：名古屋工業大学）の協力によって1929年初号機が完成された後、1936年に発足した中央製作所で純国産の機械式整流器として製品化されました。

第二次大戦後の日本経済復興の一翼を担っていた金属表面処理業界で広く使用されていためっき・アルマイトには、最大50V程度で電圧調整範囲が広く、電流容量が大きい直流電源が必要でした。また当時の娯楽であった映画には安定な光源の映写機、通信には雑音防止できる直流電源が要求されました。これら用途に、低電圧・大電流で効率が高く、電圧・電流脈動が少ないベルトーロ整流器が適用されました。1968年までに7,545台が生産されて普及しました。

ベルトーロは、三相交流を多相に変換した交流を、同期電動機の回転子に接続される整流子片上に供給して機械的に直流に変換する整流器で、国内外で特許化された独創的な技術でした。電力用半導体素子の実用化以前における高性能な機械式整流器として電気化学、通信などの日本の産業発展に貢献しました。

☆顕彰先 : ①株式会社中央製作所, ②名古屋大学, ③名古屋工業大学

☆所在地 : ①〒467-8563 愛知県名古屋市瑞穂区内浜町 24 番 1 号

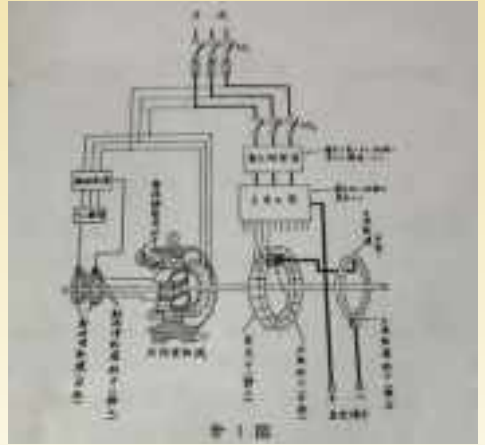
②〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

③〒466-8555 愛知県名古屋市昭和区御器所町

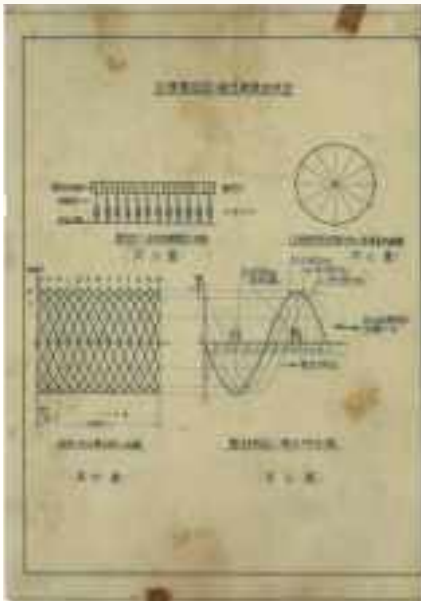
☆ホームページ : ①<http://www.chuo-seisakusho.co.jp>

②<http://www.nagoya-u.ac.jp>

③<http://www.nitech.ac.jp>



③



④



出典：日本国特許第37232号「同期電機」 ⑤

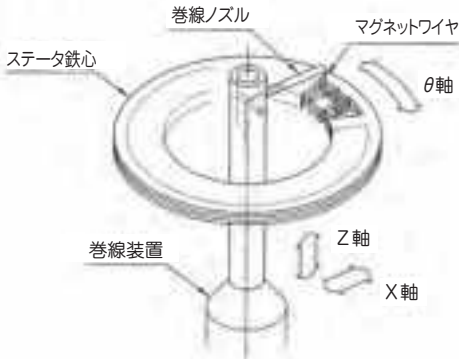
<写真提供：株式会社中央製作所>

- ① ベルトーロ（所蔵：株式会社中央製作所）
- ② 椎尾詞
- ③ ベルトーロの構造図（所蔵：株式会社中央製作所）
- ④ ベルトーロの原理説明図（所蔵：株式会社中央製作所）
- ⑤ ベルトーロの特許明細書

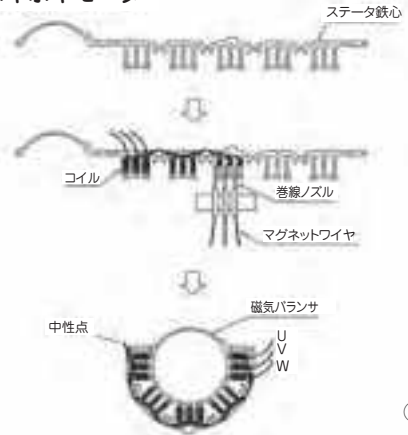
れんけつてっしん
連結鉄心による
 こうみつ ど まきせん も ー た
高密度巻線モータ
 ～ポキポキモータ～

High-density winding motor with connected core
 ～ Poki-Poki Motor ～

従来の巻線



ポキポキモータ



①

ポキポキモータは高密度巻線技術を実現した高性能で生産性の高いモータです。従来のモータは円筒状鉄心の内径側から巻線を入れるため巻線密度が低く巻線速度が遅いので、生産効率を高めるのは難しい状況でした。ポキポキモータは円筒に戻し易いように一部つながった鉄心をブロック毎に分割し、連結した鉄心を直線状に並べて高密度でしかも高速で巻線し、巻線後に円筒に戻す生産性の高いモータ製造技術です。手でポキポキと曲げられる連結した積層鉄心のモータはポキポキモータと名付けられ、1993年以降モータの小型軽量化に貢献しています。1995年ACサーボモータでは鉄心1ティース毎に巻線し、従来は65%程度であった巻線密度を95%まで高め、小型で高効率なモータにしています。1998年には鉄心をポキポキと曲げるのではなく、鉄心造りを工夫して関節型にすることにより更に巻線密度を高め、運転効率95%を超える高効率なモータを実現しています。今では家電機器・自動車用機器・産業用機器・エレベータなど世界中のモータ分野に展開され、全世界の省エネに貢献しています。

- ☆顕彰先 : 三菱電機株式会社
- ☆所在地 : 東京都千代田区丸の内2丁目7-3
- ☆ホームページ : <http://www.mitsubishielectric.co.jp/>
- ☆アクセス(最寄駅) : JR東京駅



1993年～【ブロック型】

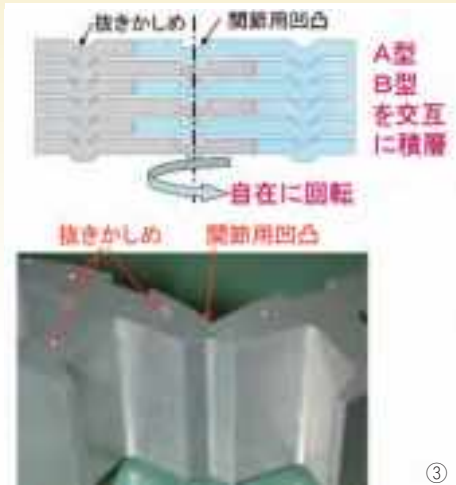


1995年～【直線型】

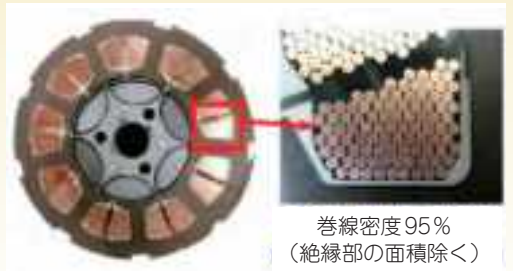


1998年～【関節型】

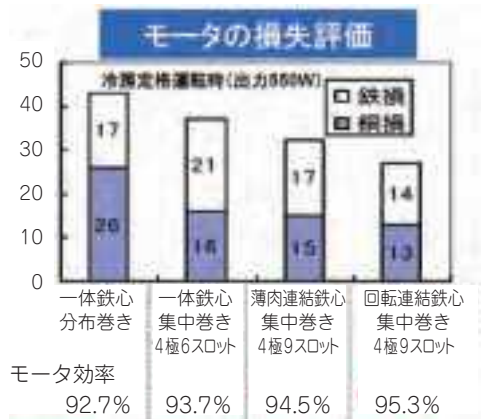
②



③



④



⑤

<写真提供：三菱電機株式会社>

- ① 従来モータとポキポキモータの構造と巻線方法の比較
- ② ブロック型から関節型へのポキポキモータ改良の変遷
- ③ 関節型ポキポキモータの構造
- ④ 関節型ポキポキモータの高密度巻線の断面
- ⑤ ポキポキモータの高効率化の変遷

ここでは、第1回～第15回「でんきの礎」90件を紹介しています（顕彰名称50音順、顕彰先の名称は受賞当時のもの）。詳細については、電気学会「でんきの礎」ホームページを参照下さい。

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
1	 場所	秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街）	秋葉原電気街振興会（東京都千代田区）
	 モノ	インバータエアコン	東芝キャリア（株）
	 モノ	ガス絶縁開閉装置	三菱電機（株）、（株）東芝、（株）日立製作所
	 場所	交流電化発祥の地（作並駅および仙山線仙台～作並間）	東日本旅客鉄道（株） 仙台支社
	 こと  モノ	500kV 系送電の実運用	東京電力（株）、関西電力（株）
	 モノ	座席予約システム：マルス1／みどりの窓口の先がけ	（財）東日本鉄道文化財団 鉄道博物館
	 人  場所	志田林三郎と多久市先覚者資料館	多久市先覚者資料館
	 こと	電力系統安定化技術	東京電力（株）、中部電力（株）、 関西電力（株）、九州電力（株）
	 モノ	日本語ワードプロセッサ JW-10	（株）東芝
	 人  場所	藤岡市助と岩国学校教育資料館	岩国学校教育資料館
2	 人  モノ	岡部金治郎と分割陽極マグネトロン	東北大学 電気通信研究所
	 こと	新幹線鉄道システム～高速鉄道の先駆的研究成果～	（財）鉄道総合技術研究所
	 モノ	電気釜	（株）東芝、（株）サンコーシヤ
	 モノ  こと	電子顕微鏡 HU-2 型（透過型電子顕微鏡）	（株）日立ハイテクノロジーズ、 （社）日本顕微鏡学会
	 モノ	電力用酸化亜鉛形ギャップレス避雷器	MSA（株）、パナソニックエレクトロニクスデバイス（株）
3	 モノ	ウォークマン TPS-L2	ソニー（株）
	 モノ	ノンラッチアップ IGBT （絶縁ゲート・バイポーラトランジスタ）	（株）東芝
	 場所  こと	明治期の古都における電気普及の先進事蹟 ～琵琶湖疏水による水力発電および電気鉄道に関する事業発祥の地～	京都市上下水道局、 関西電力（株）、京都市交通局
	 モノ  こと	臨界プラズマ試験装置 JT-60	（独）日本原子力研究開発機構 核融合 研究開発部門・那珂核融合研究所
4	 人  モノ  こと	加藤與五郎、武井武によるフェライトの発明と齋藤憲三による事業化	東京工業大学、TDK（株）
	 人  モノ  こと	古賀逸策と水晶振動子	東京工業大学
	 モノ  場所	5馬力誘導電動機および小平記念館	（株）日立製作所
	 人  モノ	高柳健次郎と全電子式テレビジョン	静岡大学 高柳記念未来技術創造館
	 モノ	電球形蛍光ランプ	東芝ライテック（株）
	 モノ	フルカラー大型映像表示装置（オーロラビジョン）	三菱電機（株）

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
5	モノ こと	NE 式写真電送装置	日本電気 (株)
	モノ こと	家庭用ビデオと放送番組視聴の実現	ソニー (株)
	モノ	カドニカ (密閉型ニッケルカドミウム蓄電池)	パナソニックグループ エナジー社 三洋電機 (株)
	モノ こと	PC-9800 シリーズ	NEC パーソナルコンピュータ (株)
	モノ こと 場所	依佐美送信所と超長波による初の欧州との無線通信	依佐美送信所記念館 (刈谷市)
6	モノ	NC 装置 (数値制御装置)	ファナック (株)
	モノ こと	OF 式コンデンサ～その製品化と電力系統への適用～	日新電機 (株) 京都本社工場
	モノ	クオーツ腕時計	セイコーエプソン (株)
	場所 こと	黒部川第四発電所	黒部川第四発電所
	こと 人	工部省工学寮電信科と W. E. エアトン	東京大学工学部電気系学科
	こと 人	鉄腕アトム～国産初の連続長編アニメーション放送～	(株)手塚プロダクション、虫プロダクション(株)
	モノ	トランジスタラジオ TR-55	ソニー (株)
	モノ	ピエゾ抵抗式半導体圧力センサ	(株) 豊田中央研究所
	モノ こと	北海道・本州間電力連系設備～日本初の本格直流送電設備～	電源開発 (株)
	モノ	マイコンレジスタ BRC-32CF-GS	東芝テック (株)
	人	屋井先蔵	東京理科大学、(一社) 電池工業会
7	モノ	魚群探知機	古野電気 (株)
	モノ	全熱交換形換気機器 ロスナイ	三菱電機 (株)
	モノ	電子制御モータを生んだ高感度 InSb 薄膜ホール素子	旭化成 (株)
	モノ こと	pin ダイオードと静電誘導トランジスタ・サイリスタ	東北大学
	モノ こと	郵便物自動処理システム	(株) 東芝、郵政博物館
	モノ	ラップトップ PC T1100	(株) 東芝
8	モノ こと 人	初代電信頭石丸安世と磁器碍子	(株) 香蘭社
	モノ こと	地図型自動車用ナビゲーションシステム	本田技研工業 (株)
	こと	直接衛星放送サービス	日本放送協会 放送技術研究所
	モノ	光干渉計式ガス検知器	理研計器 (株)
	こと 人	帆足竹治の発見した回路網結合の法則「帆足-Millman の定理」	早稲田大学

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
9	モノ こと	すべり周波数形ベクトル制御誘導電動機ドライブの実用化	(株) 東芝, (株) 安川電機
	モノ 場所 こと	大容量高効率コンバインドサイクル発電 ～東新潟火力発電所 3-1 号系列～	東北電力(株), 三菱日立パワーシステムズ(株), 三菱電機(株)
	モノ こと	デジタルファクシミリ リファクス 600S	(株) リコー
	こと	ハイビジョン方式	日本放送協会 放送技術研究所
	モノ	半導体メモリ 64kbit DRAM	(株) 日立製作所
	モノ	無声放電励起三軸直交炭酸ガスレーザ	三菱電機(株)
10	モノ こと	安全・安定輸送を支えた新幹線電気軌道総合試験車 (ドクターイエロー)	東海旅客鉄道(株), 西日本旅客鉄道(株), 東日本旅客鉄道(株)
	モノ こと	小型地下鉄用リニアモータ駆動システムの開発と実用化	(一社) 日本地下鉄協会, (株) 日立製作所
	場所 こと	佐久間周波数変換所	電源開発(株)
	場所 こと	三居沢発電所～水力発電発祥の地～	東北電力(株)
	モノ	送電系統用 STATCOM	関西電力(株), 三菱電機(株)
	モノ こと	大容量短絡試験設備と超高压衝撃電圧発生装置	(一財) 電力中央研究所
	モノ こと	デジタル技術による送電線電流差動保護方式	東京電力パワーグリッド(株), (株) 東芝
	モノ	半導体イオンセンサ ISFET	東北大学
	モノ	半導体メモリ CMOS 型 1Mbit DRAM	(株) 東芝
11	モノ 人	エレキテルと平賀源内	(公財) 平賀源内先生顕彰会
	モノ こと	旧端出場水力発電所と海底送電	住友共同電力(株)
	モノ こと	酸化亜鉛バリスタ	パナソニック(株)
	モノ こと	30 万 V 超高压電子顕微鏡	名古屋大学, (株) 日立製作所
	モノ こと	電力系統の解析法 (Y 法, S 法) とシミュレータ設備	(一財) 電力中央研究所
	モノ こと	MU レーダー (中層超高層大気観測用大型レーダー)	京大大学生存圏研究所, 三菱電機(株)
12	モノ	送信用アレキサンダーソン型高周波発電機	東芝エネルギーシステムズ(株)
	モノ	鉄道信号用電子連動装置 SMILE	(公財) 鉄道総合技術研究所, 東日本旅客鉄道(株), 大同信号(株), 日本信号(株), (株) 京三製作所
	こと	電力安定供給を支えた全国電力融通	電力広域的運営推進機関
	モノ 場所 こと	電力保安通信用マイクロ波無線 ～仙台～会津若松間無線回線～	東北電力(株), 日本電気(株)

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
13	モノ こと	回生ブレーキ付き電機子チョッパ制御車両 ～千代田線 6000 系車両の開発～	東京地下鉄 (株)、三菱電機 (株)、 (株) 日立製作所
	モノ 人	川原田政太郎と OYK モータ (自動同期引込形誘導同期電動機)	早稲田大学
	モノ	大容量 3 レベル中性点クランプインバータ	長岡技術科学大学、(株) 日立製作所、 (株) 東芝、三菱電機 (株)、富士電機 (株)、 東芝三菱電機産業システム (株)
	こと 人	中嶋章とスイッチング理論	日本電気 (株)
	モノ	方向性電磁鋼板オリエントコアハイピー	日本製鉄 (株)
14	モノ こと	産業プロセス分野向け分散型制御システム	横河電機 (株)
	モノ	電磁型オシログラフ	横河電機 (株)
	モノ 場所 こと	100 万ボルト変電機器の開発と実証試験 ～新榛名変電所における実証試験を通じた変電技術発 展と国際標準化への貢献～	東京電力パワーグリッド (株)、東芝エ ネルギーシステムズ (株)、(株) 日立製作 所、三菱電機 (株)、日本ガイシ (株)
	こと 人	鳳秀太郎と「鳳 - テプナンの定理」の実用的応用	東京大学工学部電気系学科、東北大学
	モノ	冷凍機冷却ニオブ・チタン超電導マグネット ～液体ヘリウム不要の 4 K (- 269℃) 極低温動作～	東芝エネルギーシステムズ (株)
15	モノ こと	三相回路の瞬時無効電力理論とその波及	長岡技術科学大学、東京工業大学、 ブラジル リオデジャネイロ国立大学
	モノ こと	自動車用電動パワーステアリングシステム	(株) ジェイテクト、三菱電機 (株)
	こと	電食被害の低減方法の確立と普及	(一社) 電気学会 電食防止研究委員会

顕彰先には記念品として
クリスタルトロフィー (手前)
もしくは青銅プレート (奥)
を授与しています



第 16 回顕彰委員会

令和 4 年 12 月

委員長	田 中 幸 二	(株) 日立製作所	第 103 代会長
委 員	横 山 明 彦	東京大学	第 104 代会長
委 員	山 口 博	(株) 関電工	第 105 代会長
委 員	中 川 聡 子	東京都市大学	第 106 代会長・ 顕彰選考小委員会主査
委 員	齐 藤 史 郎	(株) 東芝	第 107 代会長
委 員	大 崎 博 之	東京大学	第 108 代会長
委 員	難 波 雅 之	東京電力ホールディングス (株)	総務企画理事

第 16 回顕彰選考小委員会

令和 4 年 12 月

主 査	中 川 聡 子	東京都市大学
副主査	秋 吉 政 徳	神奈川大学
委 員	井 出 一 正	(株) 日立パワーソリューションズ
委 員	江 川 邦 彦	三菱電機 (株)
委 員	大 越 昌 幸	防衛大学校
委 員	桂 井 誠	東京大学
委 員	加 藤 政 一	東京電機大学
委 員	佐 藤 康 生	(株) 日立製作所
委 員	重 枝 秀 紀	(公財) 鉄道総合技術研究所
委 員	下 平 治	日本電気 (株)
委 員	下 村 昭 二	芝浦工業大学
委 員	杉 山 進	立命館大学
委 員	高 橋 一 嘉	中部電力パワーグリッド (株)
委 員	竹 下 隆 晴	名古屋工業大学
委 員	中 川 茂 樹	東京工業大学
委 員	兵 庫 明	東京理科大学
委 員	保 科 好 一	東芝エネルギーシステムズ (株)
委 員	前 島 正 裕	国立科学博物館
委 員	水 谷 良 治	古河電気工業 (株)
委 員	宮 坂 信 行	東京電力ホールディングス (株)
幹 事	田 所 通 博	三菱電機 (株)
幹 事	元 木 誠	関東学院大学
幹 事	島 明 生	(株) 日立製作所

電気技術の顕彰制度『でんきの礎』^{いしづえ}公募案内

電気技術の顕彰制度「でんきの礎」は、平成 20 年の電気学会創立 120 周年の記念事業の一環として設立されたもので、毎年数件程度を選定、顕彰しています。

「でんきの礎」候補の提案は、会員資格の有無を問わずどなたでもお寄せいただけますので、下記公募要領をご参照の上、多数の候補をご提案いただきますようよろしくお願いいたします。

～ 公 募 要 領 ～

《目的》

電気技術の顕彰制度『でんきの礎』は、「21 世紀においても持続可能な社会」を考える上で、20 世紀に大きな進歩を見せ、「社会生活に大きな貢献を果たした電気技術」を振り返り、その中でも特に価値のあるものを顕彰することによって、その功績をたたえるものです。これによって、その価値を広く世の中に周知し、多くの人々に電気技術の素晴らしさ、おもしろさを知ってもらい、今後の電気技術の発展に寄与することを目的とします。

《選定指針》

電気技術顕彰『でんきの礎』は、電気技術の隠れた功績・善行などをたたえ、広く世間に知らせるものであり、技術史的価値、社会的価値、学術的・教育的価値のいずれかを有し、略 25 年以上経過したものとしします。

《選定基準》

少なくとも次の (1) ～ (3) の価値のうち一つ以上の価値を有するものとし、かつ (4) に該当するものとしします。

(1) 技術史的価値

電気技術の発展史上重要な成果を示す物件、史料、人物、技術、場所などで、以下に該当するもの。

1. 未来技術に貢献をしたもの（途中で埋もれた技術も含む）
2. 独創的で第一号になったもの
3. 世界的業績あるいは世界標準になったもの

(2) 社会的価値

国民生活、経済、社会、文化のあり方に顕著な影響を与えたもので、以下に該当するもの。

4. ライフスタイル、コミュニケーション方法を変え、新しい文化を築くなど、社会変革をもたらしたもの
5. 電気に関連する産業あるいは事業の発展に著しく貢献したもの
6. 循環型社会を支える技術あるいは省電力化技術のさがりけとなったもの

(3) 学術的・教育的価値

電気技術を次世代に継承する上で重要な意義を持つものとし、以下に該当するもの。

7. 新しい概念の提案、電気理論の構築を行ったもの
8. 学術的研究で電気工学の発展に貢献したもの
9. 電気工学の教育に大きく寄与したもの

(4) 共通

10. 略 25 年以上経過したもの

《顕彰対象カテゴリー》

顕彰の対象のカテゴリーは、『人』、『モノ』、『場所』、『こと』の 4 種類とし、国内の電気技術の業績に限定します。

《提案者の資格》

電気学会会員・非会員に係わらずどなたでも提案できます。

《選考方法》

顕彰委員会にて、厳正なる審査（現地調査・ヒアリング含む）を行い、電気学会としてこれを決定します。

《顕彰件数と顕彰時期》

毎年、数件程度を選定し、発表します。3 月の電気学会全国大会に合わせて顕彰式を行い、顕彰状および記念品を授与する予定です。

《提案期限》

提案は随時受け付けています（詳細はホームページ参照）。

【提案方法】

「でんきの礎」ホームページより、『でんきの礎』提案用紙」をダウンロードし、必要事項（提案テーマ名・提案する理由など）をご記入の上、Eメールまたは郵送にて下記宛先までご提出下さい。

【提出先】

〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2
HOMAT HORIZON ビル 8 階
一般社団法人 電気学会 総務課 顕彰担当
Eメールアドレス：jimkyoku@iee.or.jp



一般社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan

<https://www.iee.jp/foundation/>

でんきの礎

検索



2023年3月10日 発行
一般社団法人 電気学会
〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2
TEL : 03-3221-7312 (代表) FAX : 03-3221-3704
ホームページ <https://www.iee.jp>
©2023 一般社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan
6-2, Go-Bancho, Chiyoda-ku,
Tokyo 102-0076, Japan
TEL : +81-3-3221-7312 FAX : +81-3-3221-3704
URL : <https://www.iee.jp>
©2023 The Institute of Electrical Engineers of Japan